

びわ湖フローティングスクール所長だより

うみのこ

所長だより第 9 号

平成 23 年(2011年)4月発行

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

大津市浜大津五丁目1-7

(TEL) 077-524-8225

自然の厳しさから学ぶ



所長 江川 久雄

まずはじめに3月に発生した東北関東地方を襲った地震とそれに伴う津波により多くの方々が亡くなられ、今なお被災されていることに謹んで哀悼の意を表したいと思えます。

さて、今年の春はいつまでも雪が降るなどして桜の開花も新生が入学してくる時期とあわせるように開花しました。やっと琵琶湖上に学習船「うみのこ」が、航行する季節がやってきました。

「うみのこ」は、3月のドック整備で全面塗装を施し、真っ白な船体に青のラインを特に引き立て、きれいな姿で小学5年生約14550人の乗船を心待ちにしています。

今年度の第1回児童学習航海は、4月21日(木)に、長浜市立虎姫小学校・小谷小学校・速水小学校・朝日小学校の4校の児童を乗せて快晴のもと長浜港から出港しました。

小学5年生の皆さんは、「うみのこ」に乗船する日をきっと心待ちにしていることと思います。皆さんの乗船する児童学習航海が、楽しく充実した思い出に残る航海となるように安全に気をつけながら実施していきます。

ところで、滋賀県で災害が特にひどかった記録を見てみると、明治29年の集中豪雨の記録です。その状況は琵琶湖博物館にも展示しており、明治29年9月3日から12日までの間に彦根气象台での積算雨量が1008mmを記録した大災害です。この雨量は滋賀県の1年間の降雨量の約半分をこの1週間で降ったこととなります。また、その中でも特に9月7日には1日で597mmの雨が降りました。この量も滋賀県の梅雨時に降るすべての雨量と同じぐらいの量

と匹敵します。この時の状況は太平洋上に台風があり滋賀県上にある前線を刺激したために大雨になったといわれています。この雨の結果、琵琶湖の水位はぐんぐん上昇し、平均水位よりプラス3.76mになりました。

この雨はもちろん滋賀県中に降ったため滋賀県のほとんどの市町村が浸水しました。この時浸水した水が無くなるまでには237日もの日数を要したようです。多くの市町では、その時の大水害の石碑や痕跡が今でも残っています。今回の東北地方には今までの大津波の石碑が多く残っていたようですが、これらの昔の石碑が語る歴史を今一度見直す必要があるようです。

滋賀県には、このときの大水害やこの後に起きる大干ばつなどをきっかけとして、それらが起こらないように、また、琵琶湖の水位が一定に保たれるようにと大津市南郷に瀬田川洗堰が建設されました。

その結果、今では明治29年のような大水害は起こってはいませんが、いつこのような災害が発生するとも限りません。最近では日本全国でゲリラ豪雨とよばれる多量の雨による災害や竜巻などが昔に比べると増えています。

「うみのこ」では、気象・水象などが特に悪くない限り、2月末までほぼ毎週航海をします。厳しい自然にさらされるときもたまにあります。このような中でもたくましい精神を培いながら活動することも「うみのこ」の大きな役割です。

これからの社会を創り出すためにはたくましい精神が必要です。しっかりと「うみのこ」の2日間から学んでほしいと願っています。